薫風薫る気節から、そろそろ恵みの雨の時期になりました。八代でも、早苗がたんぼに映えて、蛙の合唱も賑やかになってきました。

熊本労災病院のＨＰにアクセスいただき、ありがとうございます。私も着任から間もなく 3 ヶ月、病院の現状と課題を整理しつつある日々です。そのような中で、労災病院が地域で担う役割を強く再認識しております。その第一は、あらゆる事態に対応する救急医療です。毎日 10 台前後の救急車のほか、多くの患者さんが救急外来にこられます。月に 1 件程度ですが、ヘリポートを用いてのドクターヘリや防災ヘリでの搬送患者さんも来られます。各科の医師が交代で救急の当番を担い、全部で 21 名いるフレッシュな研修医（1 年目、2 年目の医師たち）は、そのサポートをしつつ元気に頼もしく修練を積んでいます。都会の大規模救急病院と比較して決して潤沢な陣容とは言えませんが、地元で迅速的確に対応する体制と能力を維持していますので、これからも頼っていただければと思います。また、小児医療やお産の管理でも、熊本県南部地域の砦としての役割を担い、「頼られる病院」の理念を日々実行しています。整形外科の手術数は院内で一番多く、手厚いリハビリテーションのバックアップもあり、労災病院としての伝統をつないでいます。さらに、災害拠点病院である熊本労災病院は、現在ＤＭＡＴ（災害時医療援助チーム）の増員を図り、また災害時の業務継続体制（Business Continuity Planning）の策定も急ピッチで行っていて、いざというときも頼られる病院でありたいと思っています。現在、多くの診療科でがんの治療を行っていますが、その生存率は毎年向上していると同時に外来での治療も多く、就労との両立が現実的な問題として注目されています。当院でも、熊本産業保健総合支援センターとの共同で、本年度から、治療と就労・生活支援のための“両立支援”窓口も設置されています。6 月からは、アレルギーの専門外来も設置し、また、精神科の非常勤医師による入院・外来患者さんの認知症や心のケアを強化するなど、列挙すればきりがありませんが、きめの細かい専門医療を提供していきたいと思っております。これからも、患者様、医師会の先生がたに引き続き頼られる病院を維持していきます。

真夏、8 月 5 日は球磨川まつりです。労災病院からも参加を予定しています。院外での「生」の職員の、ふだんとは異なる素顔も見ていただければ幸いです。